

「全体主義/スルタン主義的 支配君主制」北朝鮮に  
おける権力継承

-比較政治学の観点から分析した白頭山血統-

慶應義塾大学法学部政治学科  
磯崎敦仁人文科学研究会

4年 湯淺翔平

## 目次

### 第1節 序論

### 第2節 北朝鮮政治体制の分類

- 1項 比較政治学における政治体制の議論
- 2項 北朝鮮政治体制をめぐる議論
- 3項 「全体主義／スルタン主義」的北朝鮮
- 4項 「君主制」的北朝鮮
- 5項 「全体主義／スルタン主義的 支配君主制」

### 第3節 権威主義国家における世襲

- 1項 権力継承の概観
- 2項 現代権威主義国家における世襲

### 第4節 北朝鮮における世襲

- 1項 金日成から金正日への権力継承
- 2項 金正日から金正恩への権力継承

### 第5節 終論

## 第1節 序論

本稿は朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の権力継承に主な焦点を当てる。明らかにすることは2つある。①北朝鮮政治体制の分類 ②北朝鮮における権力継承が世襲と呼べるのかである。①のみだけで十分な議論になりうるが、その際に権力継承に関する分析を切り離すことは適切ではない。そのため、2つの論点を含めた上で同一の論文とする。比較政治学における政治体制論とともに権力継承論におけるデータを分析手段として使用することで今後の北朝鮮地域研究に寄与したい。

現在に至るまで、世界でも日本が中心的な役割を担って数多の北朝鮮研究が大きな成果を残し<sup>1</sup>、権力継承に焦点を当てた研究も多く存在する。2回の世襲を比較分析したものや、メカニズムを分析した研究など幅広くあるが、ほとんどは地域研究の分野で行われたものである。近年は比較政治など多国間分析の理論のなかで北朝鮮という事例を分析する必要性を主張する<sup>2</sup>声もある。そのような前提を踏まえ、本論文は比較政治学の観点を多く織り交ぜることによって現代権威主義国家における北朝鮮の立ち位置を相対的に明確にする。そして三世代にわたって実現した世襲という形での権力継承を他国と比較して説明する点において独自性がある。

第二次世界大戦以後、権威主義国家<sup>3</sup>における国家元首の世襲は13事例<sup>4</sup>ある。しかし、三世代にわたって最高権力を世襲することができた国家は北朝鮮のみである。「中央アジアの北朝鮮」と形容されるトルクメニスタンや「東欧の北朝鮮」と形容されたアルバニアでさえも、国家元首の世襲をしていないことから、唯一無二の国家で極めて特異であると言える。にもかかわらず、政治体制の分類では権威主義体制や全体主義という大枠に類型化されることが多い。厳密に分析すると必ずしもそのように類型化できないことを第2節で説明する。その際に、全体主義とスルタン主義と君主制の考えを採用し、比較政治学の基本概念を用いて北朝鮮を可能な限り相対化して捉える。「遊撃隊国家」や「首領制国

---

<sup>1</sup> 磯崎 敦仁. 「北朝鮮政治体制論の研究動向と「スルタン主義」」. 『国際情勢』: 紀要. 2006(76):107-119.

<sup>2</sup> 宮本 悟. 『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか?: 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』. 東京: 潮書房光人社; 2013.

<sup>3</sup> ここでいう権威主義国家とはGWFのデータセットにおける「伝統的な」君主制(monarchy)を除外したものである

<sup>4</sup> 著者が作成したデータセットに基づく。Brownlee (2007)のデータベースをもとに筆者が2021年6月までのデータを追加。共和制国家のみを対象としているため、君主制国家は除外している。追加したデータは以下を参照している。

ONE EARTH FUTURE の [https://cdn.jsdelivr.net/gh/OEFDDataScience/REIGN.github.io@gh-pages/data\\_sets/leader\\_list\\_8\\_21.csv](https://cdn.jsdelivr.net/gh/OEFDDataScience/REIGN.github.io@gh-pages/data_sets/leader_list_8_21.csv) (accessed July 14, 2021) と *Encyclopedia of world biography online*. Gale; 2021. と Archigos: A Dataset of Leaders 1875–2004 (2006), を主な情報源とした。

家」など北朝鮮のみを表す政治体制もあるが、本文は北朝鮮の政治体制を分類して相対的に位置付けることを目指す。第3節において、比較政治学の領域における権力継承の枠組みを北朝鮮地域研究に応用する。第4節は北朝鮮の世襲を他国との比較を通じて論じ、2回にわたる権力継承を世襲と呼ぶことができるのかどうか検討して北朝鮮における権力継承の独自性を相対化する。

## 第2節 北朝鮮政治体制論

### 1項 比較政治学における政治体制の議論

ソビエト連邦の崩壊後、多数の国が民主化を果たした。しかし、完全に民主主義ではなくて完全に権威主義でもない国家が誕生してきたことで政治体制をめぐる研究は新たなフェーズに入った。Levitsky and Way (2002)による選挙権威主義などハイブリッド・レジームの研究も進展し、権威主義体制の下位類型や混合類型が多く登場している。比較政治学に限らず、地域研究においても各国の政治体制をどのように分類するべきかについて大きな関心が集められている。例えば、大統領の世襲に成功しているアゼルバイジャンの政治体制の分類をめぐる議論も活発になっている。立花(2008)においては下記のように先行研究の議論が整理されている。①「大統領君主制」②「新家産制」③「民主主義・権威主義のどちらの純粋型でもない」④「戦時権威主義」⑤「スルタン主義的な権威主義」<sup>5</sup>の5つにアゼルバイジャンの政治体制が総括されている。北朝鮮においても同様であり、2節において北朝鮮の政治体制をめぐる議論に関して述べる。しかし、金正日から金正恩へ最高権力を継承した2011年以後は政治体制の分類をめぐる議論は活発に行われていない。比較政治学の領域において北朝鮮は「権威主義のなかでも政党支配型／個人支配型の混合体制」<sup>6</sup>と分類される。三世代にわたる世襲が成功した現在ほどのような政治体制に分類することが妥当なのかを比較政治学の基本概念を用いつつ、より詳細に検討していく。

### 2項 北朝鮮政治体制をめぐる議論

本項は北朝鮮の政治体制について検討する。北朝鮮の政治体制は独裁的指導者の存在、単一のイデオロギー、事実上の一党支配、繰り返される大衆動員、ノームクラツララ<sup>7</sup>の存在、指令型計画経済という旧ソ連の体制と共通の性格を有している<sup>7</sup>。一方で、三世代にわたる最高権力の世襲と高度に組織化された社会という点で唯一無二の国家になっていると言える。第二次世界大戦以後の共和制権威主義国家において三世代にわたる世襲は北朝

<sup>5</sup> 立花 優. 論文「新アゼルバイジャン党と政治体制」. 『*Ajia keizai*』. 2008;49(7):2-20

<sup>6</sup> Geddes B, Wright J, Frantz E. Autocratic breakdown and regime transitions: A new data set. *Perspectives on politics; Persp on Pol.* 2014;12(2):313-331. doi: 10.1017/S1537592714000851.

<sup>7</sup> 鐸木 昌之. 『北朝鮮首領制の形成と変容：金正日、金正日から金正恩へ』. 東京：明石書店；2014.

鮮以外に例がない。また、全国民は小学校2年生以降に何かしらの組織に所属することが義務付けられている。党員は党細胞を末端とした各組織に所属、労働者は職業総同盟、農民は農業勤労者同盟、女性は女性総同盟、青年は青年総同盟、そして小学校2年生から14歳までの朝鮮少年団がある<sup>8</sup>。全国民を組織化して人民班（30世帯で1つの単位）として監視下に置いている社会が成立している点においても他の社会主義国家とは異なる。さらに、国内の移動も不自由であり、引越しももちろんだが国内旅行をするにしても地元当局や内務省人民保安部の許可が必要な事実は他の共産主義国家には存在しない<sup>9</sup>。朝鮮労働党機関紙『労働新聞』を読み合わせする読報会や相互監視の役割を担う生活総和も存在しており、疑わしい言動があれば秘密警察の役割を担っている国家安全保衛部に密告される。権力継承の形態と高度に組織化された社会という2点から唯一無二の国家であるが、それらを包括的に説明した政治体制の分類は存在しない。

ガバン・マコーマックによると北朝鮮は5つのモデルで整理されている。①「社会主義国家」②「儒教的国家」「封建的/パトリモニー（世襲）国家」③「遊撃隊国家」/「自閉的国家」④「コーポラティズム国家」⑤「全体主義的支配」<sup>10</sup>だ。加えて、鐸木昌之によって提唱された「首領制」や、古田博司による「カルト国家」論など北朝鮮の政治体制を表している概念は多い。しかし、マコーマックによって整理されたモデルは厳密に見るといずれも北朝鮮の現状を的確に捉えているものではなく、相互補完的である<sup>11</sup>。①「社会主義国家」に関しては、2002年7月の経済改革によって部分的市場開放が行われたことからもはや該当しない。また、2009年の憲法改正で「社会主義」が標榜されながらも「共産主義」という言葉が削除されて「先軍思想」が明記されたことから適切な分類ではないと言える。そして、②「儒教的国家」「封建的/パトリモニー（世襲）国家」と③「遊撃隊国家」/「自閉的国家」は北朝鮮を絶対的に表現するのであれば相当程度の妥当性はあるだろうが、他国と比較したときに北朝鮮を相対化することは難しい。②「儒教的国家」「封建的/パトリモニー（世襲）国家」は世襲という特徴について言及しているが、高度に組織化された社会を表してはいないし、長男である金正男ではなくて金正恩に権力が継承された事実から儒教的な側面がないことが分かる。③「自閉的国家」は北朝鮮よりもアルバニアの方に当てはまる。北朝鮮は観光客が入国できて中国との貿易も活発であるが、アルバニアは外国人の入国は不可能で他国との外交も行われていなかった。④「コーポラ

<sup>8</sup> 磯崎 敦仁, 澤田 克己. 『北朝鮮入門：金正恩体制の政治・経済・社会・国際関係』. 東京：東洋経済新報社；2017.

<sup>9</sup> Lan'kov, A. N. (Andreï Nikolaevich), 山岡 由美訳. 『北朝鮮の核心：そのロジックと国際社会の課題』. 東京：みすず書房；2015.

<sup>10</sup> McCormack G, 吉永 ふさ子 訳. 『北朝鮮という国家をどのように解するか—5つの仮説を中心に』. 『世界』. 1993(587):278.

<sup>11</sup> 磯崎 敦仁. 「北朝鮮政治体制論の研究動向と「スルタン主義」」. 『国際情勢』：紀要. 2006(76):107-119.

ティズム国家」は元来、ラテンアメリカ諸国に独特の政治社会を表すものである。様々な団体が社会集団を代表して政策決定の場に出るシステムを指すが、北朝鮮にはそのような多元的な社会集団が存在しない。③「遊撃隊国家」や「首領制」「カルト国家」論などは地域研究の範囲においては妥当性があるが、他国との比較をするときには独自の政治体制になってしまい、相対的に北朝鮮を位置付けることができない。⑤「全体主義的支配」は北朝鮮の政治体制を表現するとき多用される表現だ。一部の学術論文においても、メディアでも全体主義国家北朝鮮と表現されることがある。そしてアメリカ国務省でさえもそのように言及している。

On this occasion of North Korea Freedom Week, we stand with the millions of North Koreans who continue to have their dignity and human rights violated by one of the most repressive and **totalitarian states** in the world, including the more than 100,000 individuals who suffer unspeakable abuses in the regime's political prison camps.

(U.S Department of State, Press Statement, "On the Occasion of North Korea Freedom Week", April 28<sup>th</sup> 2021)

上記に引用した声明を参照するとアメリカ国務省も声明で全体主義国家 (totalitarian states) と表現しているが、「完全な全体主義国家」と呼ぶことができないことを後述する。北朝鮮の政治体制論は様々な形で表現されているが、現在に至るまで北朝鮮政治体制を相対化する形で厳密に定義しようとした研究は磯崎(2006)が最後である。以下では、権威主義、全体主義、スルタン主義、そして君主制の主要な定義を踏まえ、北朝鮮をどのような政治体制に分類するのが妥当か分析したい。

まず、権威主義が北朝鮮に該当しないことを表1の参照を通して、改めて確認したい。多元主義から説明すると、北朝鮮は事実上、朝鮮労働党しか存在しないため敵対勢力が存在する余地はない。選挙における賛成票が100%など反対の声をあげることもできないほどに政治的自由がない。社会的・経済的な多元主義に関して言及するのであれば、国内の社会階層が3つに分離されていることが挙げられるが、生存のために首領に忠誠を誓わざるを得ないという前提においては一元的な社会である。イデオロギーに関しては精緻で指導的なイデオロギーがあるというよりは、イデオロギーを活用することで国家と体制を守っているという表現が適切であって権威主義的な側面があると言えなくもない。動員は強度なもの存在し、マスゲームや党組織への義務的な動員もある。加えて、張成沢や李英鎭などの最高幹部が理由もわからずに立て続けに粛清されるなどリーダーシップは予測不可能であり、エリートや軍隊は自律性が全くない。以上から、北朝鮮を権威主義体制に分類することは妥当ではないだろう。そのため、比較政治学の領域で行われる権威主義体制の下位類型である個人支配体制と政党支配体制の混合類型という表現は適切ではない。

	権威主義	全体主義	スルタン主義
多元主義	限定的だが責任能力が欠如した政治的多元主義。広範な社会的・経済的な多元主義を導くことがある。敵対勢力が存在する余地がある。	政治的・社会的・経済的な多元主義は存在せず、与党が権力を独占する。第二経済の存在する余地はなく、並行社会もない。	経済的・社会的な多元主義は存在し得るが、予断不可能で専制的な介入に従属する。法の支配はせず、制度化的な場合も低い。支配勢力による公私混同がある。
イデオロギー	精鋭で指導的なイデオロギーは不在だが、特徴的な精神性がある。	理想郷を目指す精鋭で指導的なイデオロギーの存在。指導者や政治エリートが性命感から正統性を主張して人類と社会に関する献身性がある。	シンボルの恣意的な操作があって支配者を極端に賛美する。個人主義以外の精鋭で指導的なイデオロギーが不在で極限的。
動員	大規模、または集中的な政治的動員のない政治体制。	即大な数の経済的組織への広範な動員が私生活に優先。幹部や家の表立った行動に重きが置かれる。	強制的または恩恵主義的な方法による儀礼的で操作的な程度が高い。準国家的な組織はスルタンに紐づいた集団に対して暴力を行使するために定期的な動員がある。
リーダーシップ	予断可能な範囲内で指導者や政治エリートが権力を行使する。一部のエリートや軍隊はある程度の自律性を持つ。	限定的でなく、予断不可能な方法で支配。しばしばカリスマ的。幹部への登用は党組織における成功と忠誠に依存する。	高度に個人主義的で恣意的であり、合理的・法的な制約がない。王権的傾向にある。政治エリートに自律性はなく、スルタンはイデオロギーに束縛されず、従属するものは強い恐怖と個人的な報酬に動機付けされる。地位はスルタンへの純粋な個人的な服従に由来する。

表 1 リンズの権威主義・全体主義・スルタン主義

出典：Linz JJ, Stepan A. *Problems of democratic transition and consolidation: Southern europe, south america, and post-communist europe*. Baltimore: Johns Hopkins University Press; 1996. より筆者作成

### 3 項 「全体主義/スルタン主義」 的な北朝鮮

本項では全体主義とスルタン主義の要素について分析する。まず、多元主義の観点から分析したい。政治的な多元主義は先述したように存在しない。朝鮮労働党による一党独裁であり、朝鮮社会民主党や天道教青友党も存在するが野党としての機能を果たしておらずに朝鮮労働党の決定に追随するのみである。遠洋漁業に行っているなどの特別な事情がある人民を除くと投票率はほぼ 100% で反対票が入ることはない<sup>12)</sup>に等しく、決定を下すことができる国内の政治勢力は朝鮮労働党のみで反対の声をあげることができるスタジアムは存在しない。住民社会の実相について検証するのは極めて難しい<sup>13)</sup>が、宗教的な自由がなく並行社会を形成するほどの表現の自由や言論の自由がない点において社会的な多元性はない。人民班によって家に入出入りする人が記録され、所得や資産なども監視されているため、党に感知されずに活動することは不可能に近いほどすべてが統制されている。ソ連では認められていた外国のラジオ放送の視聴も北朝鮮では全面的に禁止されており、ラジオはチューナーが固定されているなど情報に自由に触れることすら許されていない。労働新聞を含めた国内の定期刊行物も 10 年から 15 年の間に人民から遠ざけられ、体制の路線が

<sup>12)</sup> 磯崎 敦仁, 澤田 克己. 『北朝鮮入門：金正恩体制の政治・経済・社会・国際関係』. 東京：東洋経済新報社；2017.

<sup>13)</sup> 磯崎 敦仁. 「北朝鮮政治体制論の研究動向と「スルタン主義」」. 『国際情勢』：紀要. 2006(76):107-119.

転換したことが悟られないようにしている<sup>14</sup>。並行社会が存在する余地はなく、Linz(1996)が指摘する社会的な多元性はない<sup>15</sup>。経済に関して言えば部分的に市場が開放され、朝鮮人民軍総政治局が自ら貿易会社を経営していた<sup>16</sup>ことから多元性はわずかに存在していたと言える。ニューリッチと呼ばれる新しい層も誕生<sup>17</sup>しており、擬態した国営企業の経営に携わったりして自ら富を築いている人もいる。そのような一部エリートによる擬態した企業は黙認されていたにもかかわらず、2011年に解体されるなど法に基づかない恣意的な介入で事態が急変する。政治エリートによる脱法的な経済活動は2011年に一度は途絶えたが、外貨獲得企業所(名目は国営企業)と呼ばれる非民間で非政府の組織が自律的に経済活動を行うことで一部の人民は蓄財している<sup>18</sup>。一方で、北朝鮮を支えてきた国営農場に関して述べると他の共産主義国家とは比べ物にならないくらい自由がない。自留地はソ連の10分の1しかなく、人民は労働力を全て国家のために捧げる必要性があった<sup>19</sup>。国営農場などの統制は厳しいが、経済的な裏活動は黙認されていて1990年代の食糧危機を契機に格差も拡大している<sup>20</sup>ことから経済的な多元性は一定程度あると捉えていいだろう。総括すると、政治と社会は多元性が皆無だが、経済的には一定程度の多元性があることになる。政治と社会は全体主義であるが、経済はスルタン主義的な要素も包含する。

次に、イデオロギーについて検討したい。金日成時代の1972年憲法に「マルクス・レーニン主義を我が国の現実に創造的に適用した朝鮮労働党の主体思想」と明記され、主体思想が「唯一指導思想」となった。平岩(2013)によると「金日成は直面する問題について、イデオロギーを最大限利用しながら、ソ連、中国からの『内政干渉』をかわしつつ、国内の挑戦者たちを退けて、その時々を危機を回避した。」とある。精緻な指導的イデオロギーがあるのではなく、恣意的にイデオロギーを用いることで北朝鮮という国家の正統性を担保して他国から守ってきた。その点から主体思想は疑似的な柔軟なイデオロギーである。2013年には「党の唯一的領導体系確立の十大原則」に改定されて主体革命偉業(主体思想)と先軍革命偉業(先軍思想)を包含する「金日成・金正日主義」が最高綱領とされ

<sup>14</sup> Lan'kov, A. N. (Andreï Nikolaevich), 山岡 由美訳。『北朝鮮の核心：そのロジックと国際社会の課題』。東京：みすず書房；2015。

<sup>15</sup> 2006年頃に配給制を復活させるために一部の市場が閉鎖されたことから中年女性たちが抗議運動をしたことがあるが、組織的なものとは言えず多元的な社会を反映しているものではない。

<sup>16</sup> Lan'kov, A. N. (Andreï Nikolaevich), 山岡 由美訳。『北朝鮮の核心：そのロジックと国際社会の課題』。東京：みすず書房；2015。

<sup>17</sup> 同上

<sup>18</sup> 同上

<sup>19</sup> 同上

<sup>20</sup> 磯崎 敦仁, 澤田 克己。『北朝鮮入門：金正恩体制の政治・経済・社会・国際関係』。東京：東洋経済新報社；2017。



た。2021年10月末には「金正恩主義」という思想も北朝鮮国内で使用されているように「最高指導者（白頭山血統）≧イデオロギー」の関係性が完成している。最高指導者がイデオロギーを恣意的に操作、恣意的に更新することで支配者を極端に賛美しており、イデオロギーは理想郷の実現のための精緻で指導的なものではない。北朝鮮のイデオロギーは建国以来、あくまでも国家の正統性を守る、そして支配者を賛美するためのツールであり続けてきた。理想郷の実現のためにイデオロギーが使われたことはない。加えて、全体主義の定義である人類と社会に対する献身性（正義）はなく、ユダヤ人を排斥することでより「健全で強固な社会」を実現しようというナチズムを掲げたドイツや共産主義というユートピアを目指したソ連とは異なる。イデオロギーの観点からは北朝鮮はスルタン主義的である。

そして、動員に関してはマスゲームへの動員や義務的な徴兵など免れることができない大規模なものが存在する。国営農場への動員も他の共産主義国家に比べて自由がないことは先述した。その他にも、2016年の「200日闘争」以来となる2020年の「80日闘争」が開始され、住民を総動員した災害復旧や経済建設が遂行された。各地で軍民聯合集会が行われ、過酷なノルマが課せられる形で逃れることのできない労役が求められた。組織化された社会において連帯責任が求められ、個人は逃れることができないように統制下に置かれている。党細胞を末端とした各組織に所属することが強制され、政治的に無害な乳幼児以外は全員加盟することが義務である。労働者は職業総同盟、農民は農業勤労者同盟、女性は女性総同盟、青年は青年総同盟、そして小学校2年生から14歳までは朝鮮青年団がある<sup>21</sup>。地域単位で言えば、人民班が組織されており、箸と匙の本数まで把握されていると言われるほどに統制下に置かれている。朝鮮労働党機関紙「労働新聞」を読み合わせする読報会や相互監視の役割を担う生活総和にも住民は強制的に動員されることになっている。また、「大衆集会」や「記念行事」には100万人が動員されるというが、全人口が2200万人、平壤の人口が200万人ということ踏まえると膨大な数である<sup>22</sup>ことから、一連の動員は決して儀礼的ではなく、膨大な数の義務的組織への動員が存在するため全体主義的である。

最後に、リーダーシップについて言及する。金正恩は軍部の守旧派層を一掃して権力基盤を固めるために2010年から軍部の大粛清を行なっている<sup>23</sup>。加えて、最高幹部であり、金一族の張成沢や李英鎬を突如として粛清するなど予測不可能な方法で恐怖を与え支配している。そして、歴代指導者の肖像画の掲示が自宅の居間や工場、空港、駅などの公共施

<sup>21</sup> 磯崎 敦仁, 澤田 克己. 『北朝鮮入門：金正恩体制の政治・経済・社会・国際関係』. 東京：東洋経済新報社；2017.

<sup>22</sup> 磯崎 敦仁. 「北朝鮮政治体制論の研究動向と「スルタン主義」」. 『国際情勢』：紀要. 2006(76):107-119.

<sup>23</sup> Lan'kov, A. N. (Andreï Nikolaevich), 山岡 由美訳. 『北朝鮮の核心：そのロジックと国際社会の課題』. 東京：みすず書房；2015.

設にも義務付けられていて記念行事の際には像に頭を下げるなど指導者を崇拜させるカリスマ的な支配という全体主義の側面もある。それと同時に、スルタン主義的な側面も共存している。首領の一存で政治エリートを排除することができることから高度に個人主義的で恣意的である。加えて、金正日が提唱した「社会政治的生命体論」によると脳髄は首領であり、その首領を中心として国家が形成されていることから政治エリートに自律性はないだろう。首領の指示に従うしかなく、意向に沿わない決断をすることは許されないことからスルタン主義的である。リーダーシップはスルタン主義的な側面もありつつ、全体主義的な特徴もあって混合的と言える。

#### 4 項 「君主制」 的北朝鮮

Linz (2014)は君主制を支配君主制／立憲君主制／議会制民主主義の君主制の3つに類型化した。前提として君主制は血統によって代々、国家元首が世襲される体制を総称したものが、表2を参照するとなかでも北朝鮮は支配君主制に分類されることがわかる。

	支配君主制	立憲君主制	議会制民主主義の君主制
定義	君主が政府を形成し、終わらせることができる	政府の形成と解散は君主と選出された議会の双方の支持が必要になる	自由選挙で選出された議会によってのみ政府は形成され、解散される

表2 リンスによる君主制

出典：Stepan AC, Linz, Juan J. -- (Juan José), Minoves JF. Democratic parliamentary monarchies. Journal of democracy.

2014;25(2):35-51. doi: 10.1353/jod.2014.0032.より筆者作成

北朝鮮の世襲は後述する他の共和制国家における世襲とは一線を画す。三世代にわたる世襲が成功していることと、他の共和制国家にはなかった世襲が明文化されたことが特徴的である。三世代以上の世襲に成功しているのは現存する29か国の君主制の国家と北朝鮮の合計30か国のみだ。君主制国家の大半は権力継承について憲法で明文化しており、厳格な規則が存在する。サウジアラビアは憲法に相当する国家基本法第5条で統治制度は君主制であると明記している。統治権は、建国者たるアブドル・アジズ・ビン・アブドル・ラハマン・アル・ファイサル・アル・サウード王の男子およびその子孫に継承されると明確に世襲を規定している。ヨルダンもヨルダン・ハーシム王国憲法第28条でヨルダン・ハーシム王国の王位はアブドゥラ・イブン・アルフセイン国王の男子直系世襲と明文化されている。その他にもヨーロッパのスペインやデンマーク、アジアのブータンなども憲法に世襲が規定される<sup>24</sup>。

北朝鮮も同様に世襲に関する規定が明文化された。2013年6月に39年ぶりとなる「党の唯一思想体系確立の十大原則」の改定がされた。これは全国民、全組織の行動規範として

<sup>24</sup> 山田 邦夫, 諸外国の王位継承制度—各国の憲法規定を中心に, レファレンス = The reference. 2005;55(9):82-100.

徹底して運用され、憲法、労働党規約をも超越する北朝鮮の最高規律、綱領である<sup>25</sup>。ここに「我が党と革命の命脈を白頭の血統で永遠に保ち（中略）、その純潔性を徹底的に固守しなければならない」という条文が加わり、間接的に世襲が規定されたことになる。第10条は「偉大な金日成同志が開拓し、金日成同志と金正日同志が導いて来た主体革命偉業、先軍革命偉業を代を継いで最後まで継承・完成すべきである」としており、金正恩への世襲が正統化されている。白頭山の血統で朝鮮労働党を率いる、すなわち朝鮮民主主義人民共和国を率いるということが明文化された。アゼルバイジャンやシリアなど身近な世襲の事例は多々あるが、共和制国家において世襲が明文化されたことはない。そして、権力の家産化が禁じられた共産主義に変わって金日成・金正日主義が革命思想になったことで世襲も正当化することができる。他の共和制国家と比較した時の北朝鮮のこのような動きは非常に特異である。このような背景を考慮すると単純な共和制国家に分類するより、支配君主制に分類するのが妥当になる。

#### 5項 「全体主義／スルタン主義的 支配君主制」

完全な「スルタン主義」でも完全な「全体主義」でもない。共和制国家ではなく、君主制国家であるのが北朝鮮だ。北朝鮮を絶対的に位置付けようとする北朝鮮研究のパイオニアが提唱してきた首領制や遊撃隊国家などの表現が適切かもしれない。しかし、北朝鮮を比較政治学の観点から相対化しようとした時には既存の枠組みでは特徴を最大限に表すことができない。最も一般的に使用されるGWFのように権威主義に分類することは妥当ではなくて、全体主義体制とスルタン主義体制の混合類型であり、世襲が明文化されたということから支配君主制として相対的に位置付けるのが最も妥当である。スルタン主義と全体主義は元来、共和制国家に使用されてきたカテゴリーであるが、2つの政治体制の特徴は君主制と呼べる北朝鮮にも該当する。「現代まで生き残っている唯一の全体主義国家」であり、「現代まで生き残っている唯一のスルタン主義国家」であり、「現代に生き返った支配君主制国家」であるのだ。

本節は比較政治学の既存の政治体制の枠組みを組み合わせることで北朝鮮を相対的に位置付けた。「全体主義／スルタン主義的 支配君主制」というカテゴリーは既存の政治体制の枠組みを用いたとしても唯一無二であり、北朝鮮を特徴的な国家として十分に表現することができるのではないだろうか。比較政治学の観点からも北朝鮮研究の観点からも妥当性がある。

### 第3節 権威主義国家における世襲

#### 1項 権力継承の概観

---

<sup>25</sup> 石丸 次郎. 第210回産業セミナー「揺れる金正恩唯一独裁体制：孤立と粛清の四年を振り返る」. 『セミナー年報』. 2015:27-42.

本節は筆者による論文「現代権威主義国家における国家元首の世襲条件-王朝を築きたい独裁者における王位継承の策-」(ネット上でアクセス可能になる予定)をベースにしたものになる。北朝鮮研究との関連性は少ない点もあるが、今後の北朝鮮研究における権力継承の議論に寄与したい思いから挿入する。

第二次世界大戦以後の権威主義国家における最高権力の世襲を体系的に整理した研究はBrownlee (2007)のみである。国際的にも研究が進んでおらず、日本においては目立った研究成果がない。2019年度日本比較政治学会で「権威主義体制における権力継承」<sup>26</sup>という題目で世襲に注目したセッションがあるなど、国家元首の世襲に関する注目度は国内でも高いものの、国内で世襲に注目した研究は進展していない。そのような事情もあって、北朝鮮における権力継承を他国と比較して分析したものが存在していない。第3節と第4節においては比較政治学と北朝鮮地域研究を横断する形で北朝鮮の世襲を相対化することで今まで存在していない領域を開拓する。

1956年に行われた第20回ソ連共産党大会において第一書記フルシチョフが「スターリン批判」をし、最高権力を掌握した。スターリンの地位を継承したマレンコフやブルガーニンは失脚し、スターリンの遺体も撤去されるなど業績が否定された。次男であったワシーリー・スターリンは父親の死後に国家反逆罪で訴追されており、懲役8年の刑に処されて若くして死去した。娘のスヴェトラナ・アリルエワはアメリカに亡命して余生を過ごした<sup>27</sup>。アルバニアのエンベル・ホッジはラミズ・アリアを後継者に指名して1985年に死去したが、未亡人となったネジミヤや息子のイリルは投獄された。その他の家族も貧しい暮らしを送ることを余儀なくされるなど、不遇の余生を過ごしたとされる<sup>28</sup>。このように指名された後継者が不在のソ連のような状況や、指名した非世襲の後継者が自身の希望通りに統治を行わなかったアルバニアのような状況では、権力の座をめぐる争いや混乱が起きたり、子孫が迫害されるリスクが存在する。権力継承はあらゆる組織において最も劇的な変化を生む事象であり、繊細な問題である。直近の事例だと、ジンバブエのロバート・ムガベ大統領は90歳になるまで37年間にわたって国家を統治してきた。2017年にムナンガグワ第一副大統領が突如解任され、妻グレース・ムガベに権力継承の意向を示したことで党内の対立が深まってクーデタに繋がった<sup>29</sup>。このように権力継承の時期が訪れた時に誤った判断をしてしまうと30年以上にわたる長期政権でも数日の間に崩壊してしま

---

<sup>26</sup> 北朝鮮、アゼルバイジャン、湾岸アラブ君主国のみが対象であった

<sup>27</sup> OLEG YEGOROV. In stalin's shadow: How did the lives of his family turn out? <https://www.rbth.com/history/326826-stalins-family-in-his-shadow>. Updated 2017. (accessed: "Dec 6, 2021").

<sup>28</sup> Roland Prinz. Dictator's sons are bitter, idle, unrepentant. <https://apnews.com/article/57fae547aa180aac28b397c7a9f687b>. Updated 1993. (accessed: "Dec 6, 2021").

<sup>29</sup> Zimbabwe politics: Mugabe sacks 'disloyal' mnangagwa. BBC NEWS Web site. <https://www.bbc.com/news/world-africa-41890493>. Updated 2017. (accessed: Dec 9, 2021).

う。ソ連やアルバニアの事例を考慮すると世襲という権力継承が支配者にとっては合理的な選択肢になり、ジンバブエの事例からは家族内における権力継承も慎重を期すことが大事であると分かる。政治エリートと社会を厳しい統制下に置いてクーデタを防ぎながら、世襲という権力継承を採用することで金一族の生存を目指す北朝鮮はある意味で賢明であるのだ。他の国家が実現できない理想的な権力継承を2回も達成した。

権力の継承は世襲と非世襲に大きく分けることができる。支配者は治世の安定と正統性の観点から世襲という権力継承の形態を好む傾向にある<sup>30</sup>。政治的局面はもちろん、あらゆる状況で親族が最も頼ることができる協力者になりうる<sup>31</sup>ことは想像がしやすい。実際に、第二次世界大戦が終わってから支配者が息子にクーデタを起こされた事例はない。赤道ギニアで初代大統領フランシスコ・ンゲマが甥のテオドロ・ンゲマに殺害されて政権を奪われた事例はあるが、直系の息子とは無難な関係を築くのが普通だ。金正日の長男である金正男のように体制に批判的であったり、体制に無関心な息子も存在するが父親にクーデタを起こすことはない。むしろ、金正男は体制への脅威と見做されて兄である金正恩に暗殺されてしまったが、共和制国家における支配者は非世襲よりも世襲による権力継承を望むという前提の上に立脚する。しかし、これは必ずしも支配者は世襲に挑戦するということを意味しない。アルバニアのエンベル・ホッジャや歴代の中国の指導者をはじめとする共産主義国家はマルクス・レーニン主義に則って権力の家産化をしなかった。また、タンザニアなどその他の権威主義国家においても世襲に挑戦せずに、非世襲の選択肢をとった政権も多くある。理由は外国からの援助を得るために民主的な姿を演じたり、Brownlee (2007)がいうように政党の慣習に従う必要があるなど多岐に渡る可能性が考えられる。しかし、諸々の制約がなければ世襲こそが支配者にとっては最も理想的な権力継承であるのだ。生前の権力継承の場合、直系の血縁関係がある後継者（息子）は支配者（父親）を処刑・追放・訴追することはなく、死後も業績を否定したりすることは考えにくい。北朝鮮の金正日や金正恩は祖先が残してきた業績を誇大とも言えるほどに宣伝し、自身の正統性を主張していることから理解できる。

Anne (2021)は世襲という権力継承の形態が取られるのは非常に稀な現象であると言及している。確かに、図1からは4.19%のみが世襲であることがわかる。しかし、図1から以下のこともわかる。世襲という権力継承が稀なのではなくてそもそも穏便な権力継承が特異なのである。穏便な権力継承（世襲、非世襲（任期なし）、非世襲）が占める割合は36.45%しかない。そのほか3分の2の場合は政党内エリートによる蹴落とし、クーデタ、敵対勢力の勝利、外国勢力による転覆など混乱が伴う権力継承である。このような事実を鑑みると、世襲という権力継承は稀有なものであると一言で片付けることはできない。

<sup>30</sup> KOKKONEN A, SUNDELL A. Delivering Stability—Primogeniture and autocratic survival in european monarchies 1000–1800. *The American political science review*; *Am Polit Sci Rev*. 2014;108(2):438-453. doi: 10.1017/S000305541400015X.

<sup>31</sup> Burling R. *The passage of power: Studies in political succession*. Academic Press; 1974.

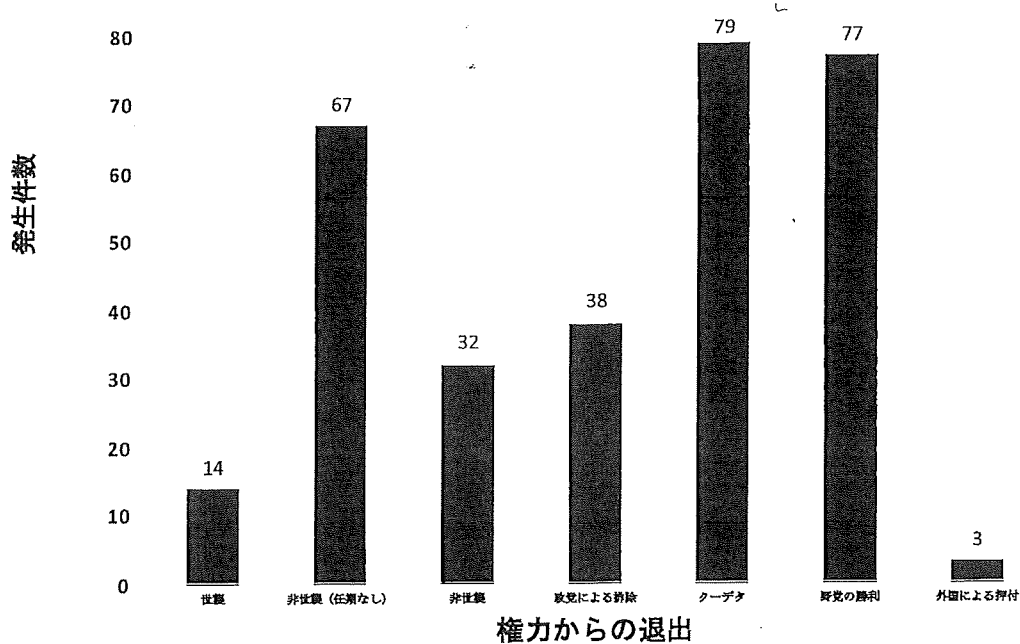


図1 権威主義国家における権力継承の類型  
(1946~2021)

出典：データは著書より利用可能<sup>32</sup>

図2にて政党内の権力継承に注視して分析すると16.45%が家族内と支配者が恣意的に指名した後継者による権力継承になっている。16.45%の権力継承は、支配者の意思に従って行うことができたのに対して、残りの83.55%は憲法やエリートの制約を受けた形になる。世襲という権力継承は一見すると特異な現象に見えるが、そもそも穏便な権力継承が少数であり、そのなかでも支配者が恣意的に後継者を指名することが少ないことを考えると一概に稀な現象と言い切ることはできない。他の政治エリートの意向を完全に無視し、支配者の意思のみで後継者を選ぶことができる場合は家族内における権力の継承が主流になる

<sup>32</sup> Brownlee (2007)のデータベースをもとに筆者が2021年6月までのデータを追加。共和制国家のみを対象としているため、君主制国家は除外している。

追加したデータは以下を参照している。

oneearth FUTURE の [https://cdn.jsdelivr.net/gh/OEFDDataScience/REIGN.github.io@gh-pages/data\\_sets/leader\\_list\\_8\\_21.csv](https://cdn.jsdelivr.net/gh/OEFDDataScience/REIGN.github.io@gh-pages/data_sets/leader_list_8_21.csv) (accessed July 14, 2021) と *Encyclopedia of world biography online*. Gale; 2021. と Archigos: A Dataset of Leaders 1875–2004 (2006), を主な情報源とした。

ことから現代においても世襲が発生する機会はある。しかし、現実には憲法による制約や政治エリートの意向が支配者の意思よりも優先する形で大きく影響してくる。

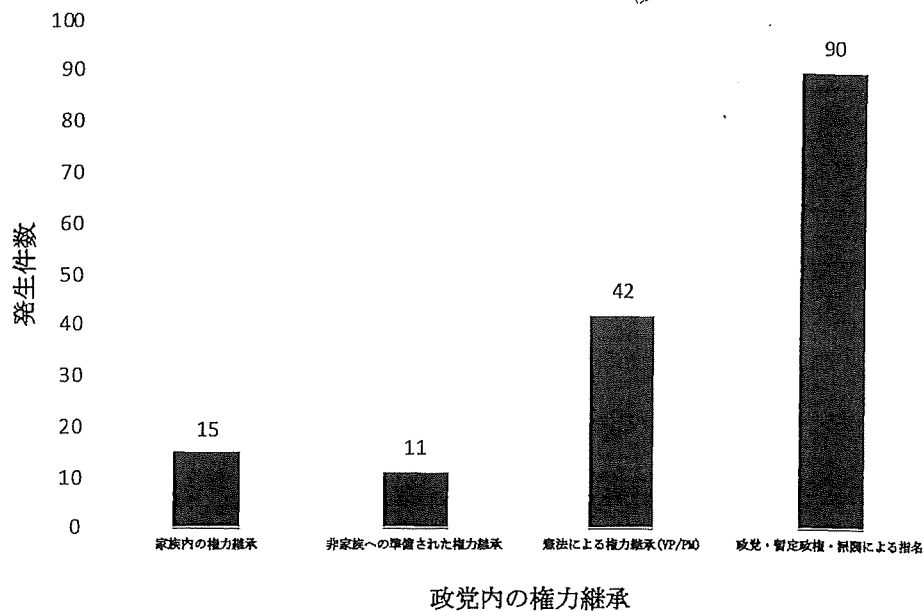


図2 権威主義国家における政党内における（穏便な）権力継承<sup>33</sup>

出典：データは著書より利用可能、脚注 33 を参照

改めて、世襲が行われる前提と世襲の定義を確認する。本論文では第二次世界大戦以後に3年以上にわたって連続して国家の最高権力を支配した政権を対象としている。また、世襲が選択肢として考慮されるようになる前提は ①政治的な機会として、後継者が成人するまで権力を維持し続けること ②生物的な機会として、成人した男性の後継者がいることの2つが挙げられる<sup>34</sup>。ここで成人した男性に絞ることに疑義を感じるだろう。ブルガリアの事例では娘のリュドミラ・ジブコフは文化大臣に登用、ウズベキスタンではグリナラ・カリモフが高位の外交官として活躍してカザフスタンのダリガ・ナザルバエフが副首相と上院議長を務めるなど女性が世襲後継者として注目されたことは多々ある。北朝鮮で言うと、正日の妹金敬姫が後継者になった話があったが最終的には直系の息子に継承された。ハイチの「Baby Doc」政権初期には母親である Simone Ovid Duvalier (François Duvalier の妻) が中継ぎのような形で権力を掌握したり、アルゼンチンのファン・ペロン

<sup>33</sup> 家族内における権力継承は世襲に加えて、兄弟間の権力継承が行われたニカラグアとキューバの事例が追加される。

<sup>34</sup> Brownlee J. Hereditary succession in modern autocracies. *World Polit.* 2007;59(4):595-628. doi: 10.1353/wp.2008.0002.

の妻であるイザベル・ペロンが大統領職を継承<sup>35</sup>したことはあるが、娘が権威主義的な世襲をした事例は今まで存在しない。ウズベキスタンやカザフスタンの事例では両名とも失脚という結末になった。以上の理由によって女性は対象から外す。政治的な機会と生物学的な機会を満たした上で初めて世襲という権力継承が選択肢にある。だが、2つの条件を満たす政権はそう多くない。政治的な機会を満たすには、後継者が成人するまで権力を維持し続けるということであって支配者が60歳になるまで権力を維持するというに等しい。実際にデータセットを参照すると310事例中145事例は60歳未満で権力から退出しており、息子が30歳になるまで権力を維持し続けることの難しさがわかる。また、生物学的な機会を満たすことも難しく、毛沢東は長男の毛岸英を戦争で亡くして次男の毛岸青は精神病を患ったことで国を治めることができる適切な後継者が不在だった。また、アルジェリアのブーテフリカは20年にわたって権力の座にいたが私生活に関しては謎の部分が多く、子供がいない<sup>36</sup>など世襲するために必要な条件を持たない独裁者もいる。図3からわかる通り、自らが望む後継者に権力を継承する場合は年齢が高ければ高いほど有利である。50歳未満の場合は後継者を自由に選ぶことさえも難しい。仮に年齢を重ねて世襲できるほどの権力基盤をつくることができたとしても、政治エリートによる反発や民衆による反乱体制によって政権が転覆してしまうことも多い。金日成から金正日への権力継承は準備期間が20年以上もあった周到なものであり、金日成も高齢になっていたことから政治学的な機会を十分に満たして世襲の成功は比較的予測が可能だった。しかし、金正日から金正恩への権力継承は若干2年という短い準備期間で金正恩もまだ若かったことから共和制国家における世襲のなかではやや異例なものだ。

以下の事例を見ればわかるが、Brownlee (2007)が説明する政治エリートの掌握だけでは国家全体を統治することができずに混乱を招きかねない。国外からの圧力に抵抗することは容易ではないが、民衆の掌握も不可欠である。ルーマニア社会主義共和国を治め続けたニコラエ・チャウシェスクは息子ニクにルーマニア共産党中央委員などの要職を与えて家族による権力継承を目指していたとされるが、1989年に民衆が反乱を起こした「ルーマニア革命」で処刑されて世襲には至らなかった<sup>37</sup>。イラクのサッダーム・フセインは2人の息子ウダイとクサイに情報機関や軍事組織、党の要職などを与えて世襲の準備をしていた<sup>38</sup>が、2003年のイラク戦争を機に体制は崩壊して処刑された。大統領直属の情報機関(Jihaz

<sup>35</sup> 副大統領から昇格。民主的なプロセスで大統領職を継承したため、権威主義国家における世襲ではない。

<sup>36</sup> Algeria's former president bouteflika dies at 84. SWISSINFO Web site. <https://www.swissinfo.ch/eng/algeria-s-former-president-bouteflika-dies-at-84/46958222>. Updated 2021. (accessed: Dec 10, 2021).

<sup>37</sup> Caramani D. *Comparative politics*. Oxford, United Kingdom: Oxford University Press; 2017.

<sup>38</sup> Sadiki L. Like father, like son: Dynastic republicanism in the middle east (article). *Carnegie Endowment for International Peace*. 2009(52):1-14.



Al-Hemiya Al-Kasa or Amn Al-Kusour)や民兵組織 (Fedayeen Saddam) はサッダームの近親者のみが長官を務め、息子たちが党軍事局や国家安全保障会議の要職を務めるなど「国家の家族経営」であった。リビアのカダフィは子供たちに人民社会指導部や国家安全保障顧問などの要職を与えていた<sup>39</sup>が、2011年のリビア内戦で殺害されて世襲の夢は叶わなかった。エジプトのムバラクは息子ガマルを与党政策委員長に就かせていたが、2011年「アラブの春」で政権は崩壊して世襲することはできなかった。世襲を目指していた国家において、政治エリートによる反発以外にも民衆による反乱などが支配者の望む権力継承を妨げてきた。他国の事例を鑑みると人民を完全に統制化に置くことで反乱を防いでいる北朝鮮の組織化された社会の完成度と核を手放さない外交における巧妙さが伺える。それによって反乱と外国による侵略を防いで、政権の生存を可能にしている。

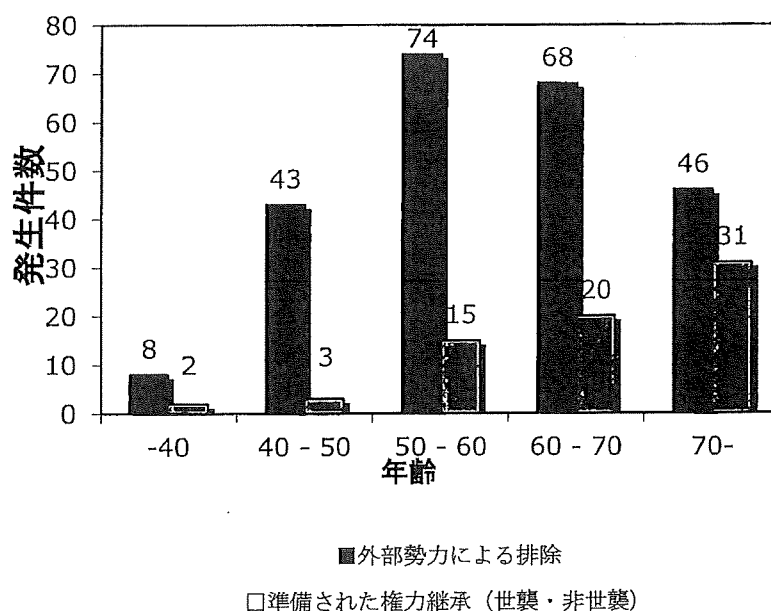


図3 権力からの退出と年齢

出典：データは著書より利用可能、脚注33を参照

次に世襲の定義について述べるが、先行研究と同一のものにする。以下の3条件だ。

1. 父親から息子への最高統治権力の移行
2. 支配者の死に先立つ権力移譲の開始、または準備

<sup>39</sup> Inside gaddafi's inner circle. ALJAZEERA Web site. . Updated 2011. (accessed: Dec 10, 2021).

3. 民主的な権力継承制度の不在（選挙民主主義）、または一族による統治の法的規定の不在（伝統的君主制）

(Brownlee, 2007)

3つの項目について補足する。1つ目は「父子間の権力継承」に限るということで兄弟間の継承は含まない。父親から権力を継承したニカラグアのルイス・ソモサ・デバイレは次に弟のアナスタシオ・ソモサ・デバイレに権力を譲り、キューバのフィデロ・カストロ第一書記は弟のラウル・カストロに最高権力を移譲した。しかし、兄弟間の権力継承は父子間に比べてメリットが少ない。金敬姫への権力継承が行われなかった理由として伝統的な儒教国家であることも考えられるが、金一族の永続的な支配を希求するのであれば権力継承の回数を少なくすることが合理的だと考えられたのではないだろうか。権力継承というリスクを伴う行為を年齢が近い者同士で行うことで体制が不安定になる機会（権力継承の機会）が必然的に増えることになるのに加えて、支配者にとっても反旗を翻される可能性が父子間に比べて高くなる。例えば、ヨルダンのアブドラ国王の異母弟ハムザ前皇太子が軟禁された<sup>40</sup>事実や金正恩と金正男の確執など兄弟間の不安定要素は多々観察される。従兄弟や甥への権力継承はさらにリスクを高める<sup>41</sup>。2つ目の「生前の権力継承準備」が条件に加わることで父親の不慮の死のあとにクーデタに近い形で権力を掌握した事例を除外する。例えば、2021年4月にチャドのイドリス・デビーが戦闘を視察中に負傷して死亡し、37歳になった息子のマフマト・デビー少将が軍事移行評議会議長（暫定大統領）に就任した事例が挙げられる。政府と議会は解散されて国境閉鎖・夜間外出禁止令を出すなどして「王朝的クーデタ」<sup>42</sup>と形容されているため、生前に世襲の意図はなかったと想定する。チャドの事例は既存の国家機関と制度を超越する軍事移行評議会を立ち上げて最高権力を掌握したクーデタであって世襲ではない。3つ目の「選挙民主主義と伝統的君主制でないこと」は民主主義国家における世襲や制度として世襲が確立されている国家を除くということだ。アメリカのブッシュ父子やインドネシアのスカルノ父娘などは選挙によって選ばれた大統領であるため、除外される。また、

<sup>40</sup> Jordan's prince hamzah bin hussein 'under house arrest'. BBC News Web site. <https://www.bbc.com/news/world-middle-east-56626370>. Updated 2021. (accessed: Dec 9, 2021).

<sup>41</sup> コンゴ民主共和国のローラン・カビラは2001年1月に暗殺されて息子のジョゼフ・カビラが大統領職についた。2003年にはジョゼフの従兄弟であるエディ・カペンドが暗殺の首謀者として拘束された。赤道ギニアでは初代大統領フランシスコ・ンゲマが甥のテオドロ・ンゲマに暗殺されている。

<sup>42</sup> Mahamat Adamou. Chad president's death: Rivals condemn 'dynastic coup'. BBC News Web site. <https://www.bbc.com/news/world-africa-56830510>. Updated 2021. Accessed (accessed: Dec 6, 2021).

伝統的な君主制国家であるサウジアラビアやエスワティニも伝統的に国王が世襲されてきたから除外する。もし、北朝鮮が世襲を明文化した現在の状態で3回目の世襲に成功したら伝統的な君主制として本データセットから除くことになるだろう。以上の3つが本論文における世襲の定義になる。

世襲の成功と失敗を分ける要因は、後継者が掌握しているポストに依存する。権力継承にあたって重要なポストは「政府・党・軍・レンティア関連機関」の要職だ。これら4つの役職を選定した理由はGWFの政治体制の類型と「パトロン＝クライアント関係」に基づいている。GWFは権威主義国家を政党支配型・個人支配型・軍事支配型とその混合類型で分類しており、Bueno de Mesquita (2003)はレンティアの重要性を説明しているため、これらの役職を設定した。重要な国家機関を後継者が掌握して政治エリートと民衆にポーカバレルとパトロネージを用いることが可能になり、見返りとして忠誠を得て反発を最小限に抑えことができるため、世襲に成功しやすい。Bueno de Mesquita (2003)の「パトロン＝クライアント関係」を応用して考えることができる。後継者は重要な機関を統制することで人事権と決裁権をクライアント（政治エリートと民衆）に有利な形で行使できるため、忠誠心を得ることができ、「パトロン＝クライアント関係」を築いた後継者（息子）と地盤がない後継者の座を狙うエリートの選択肢であれば、クライアントは後継者（息子）を選択する方が合理的になるため、世襲することができる。

支配者による後継者への恣意的なポスト配分がなぜ可能であるのかという問いに関しては以下の2つから説明できる。1つ目は政治体制の類型である。世襲に成功している政権の多くは、個人支配型に分類されている。一方で、世襲に失敗した政権は政党支配型に分類されている傾向にある。政党支配型の場合は、権力継承の手続きが制度化<sup>43</sup>されていることや支配者を擁立することで権力を維持する党内政治エリートに大きく影響されると考えられるため、支配者の独断で後継者を選任することが難しいと考えられる。世襲に成功する傾向にある個人支配型の場合は、支配者に権力が集中する傾向にあるため周りからの制約を受けることなく、後継者を指名することができる。ここで以下のような反論が想定される。GWFの分類はそもそも後継者選任プロセスも参照した上でなされているのではないかと考える人もいるだろうが、権力継承ではなくて政策決定プロセスや統治構造などの構造的要因を参照している<sup>44</sup>ため、この指摘は該当しない。2つ目は支配者の在任期間の長さである。Geddesは支配期間が長いほど、個人支配化が進むとしてい

---

<sup>43</sup> 中国共産党総書記は中央委員会全体会議によって選出されることが制度化されている。国家主席は全国人民代表大会全体会議において投票によって過半数を占めた場合に選出される。その他の共産主義国家も同様に制度化されていることが多く、政治エリートによって慣習化されているために個人の意向は反映されにくい。

<sup>44</sup> Geddes B, Wright J, Frantz E. Autocratic breakdown and regime transitions: A new data set. *PERSPECT POLIT*. 2014;12(2):313-331. doi: 10.1017/S1537592714000851.

る<sup>45</sup>。世襲に成功した支配者の平均在任期間は27.96年であるのに対して世襲に失敗した支配者の平均在任期間は18.74年間である。そして、世襲に成功した支配者の平均権力掌握年齢45.68歳・平均権力喪失年齢73.37歳であるが、世襲に失敗した支配者の平均権力掌握年齢56.69歳・平均権力喪失年齢75.42歳であることを考慮すると権力の掌握年齢が若い方がいいということがわかる。さらに、世襲に成功した蒋介石とヘイダル・アリエフは国家が独立する前から最高権力を握っていることを踏まえて2事例を除外すると平均権力掌握年齢は40.55歳になる。以上の2点を踏まえると40歳前後に権力を掌握し、個人支配型の政権を運営することができれば世襲に成功する可能性が高まるということができる。個人支配型の政権の樹立は統治機関を非制度化することで規則よりも支配者個人が優先される<sup>46</sup>状況をつくることで可能になる。そのために、政治エリートを入れ替えて支配者に忠実な者を登用することで、支配者が制度を超越することに反発する層を排除しつつも新たに登用した政治エリートを従属させることは有効な手段だ。北朝鮮の金日成は満洲派と呼ばれる派閥の領袖を務めて、ソ連派や延安派などの政治エリートを粛清し続けた。国内にいる政治エリートを徹底的に排除して自身の血縁者や派閥に所属する人間を要職に登用し続けたことで個人支配体制の確立に成功した。シリアのハフイズ＝アル・アサドもバッシュアル・アル＝アサドへの世襲の前に軍と諜報機関の守旧派や交通事故で死亡した本来の後継者バジルに近い人物などを追放する<sup>47</sup>ことで政治エリートを入れ替えた。また、死の直前である2000年にはマフムード・ズワビー内閣を総辞職させ、ズワビーは拳銃自殺した。その他の体制内部のエリートも続々と逮捕された。アゼルバイジャンのヘイダル・アリエフはアゼルバイジャン共産党第一書記になった1969年に80%の公職者を排除して血縁地縁がある人物を新たに登用した。政党が強固で、時には支配者を上回る影響力を持っていたソビエト時代だが、急進的なやり方で自身に好意的な政治エリートを登用<sup>48</sup>することで個人支配を確立し始めたと言える。Brownlee (2007)が提唱する政党と支配者の先行性に関係なく、政治エリートを入れ替えて個人支配を確立できれば世襲することができる。

国家元首の世襲に成功するためには40歳までに最高権力を掌握し、政治エリートを粛清しながら自身の血縁・地縁・派閥に近いエリートを登用することで個人支配型体制を確立することが必要になる。その上で、自身の息子を「政府・党・軍・レンティア関連

---

<sup>45</sup> Van den Bosch J. Personalism: A type or characteristic of authoritarian regimes? *Politologická revue; Czech Political Science Review*. 2015;21(1):11-30.

<sup>46</sup> Van den Bosch J. Personalism: A type or characteristic of authoritarian regimes? *Politologická revue; Czech Political Science Review*. 2015;21(1):11-30.

<sup>47</sup> Zisser E, Asad Ba. Will bashshar al-asad last? *Middle East quarterly*. 2000;II(3):3-12.

<sup>48</sup> Hannes Meissner H. Informal politics in azerbaijan: Corruption and rent-seeking patterns. *CAUCASUS ANALYTICAL DIGEST*. 2011(No.24).  
<https://css.ethz.ch/content/dam/ethz/special-interest/gess/cis/center-for-securities-studies/pdfs/CAD-24-6-9.pdf>

機関」の要職に就けることで人事権と決裁権を掌握してポーグバレル、レンティアなどを分配することが世襲の必要条件になる<sup>49</sup>。北朝鮮においては役職にどれほどの実権があるのか不透明な部分があるため、本理論がどこまで通用するかわからない課題があることに留意したい。特に金正恩の場合は不明瞭である。第4節では三世代にわたる権力継承が世襲であるのかどうかについて議論する。

年	支配者	後継者	国名	体制	後継者の役職			
					政府	党	軍	レンティア
1956	アナスタシオ・ソモサ・ガルシア	ルイス・ソモサ・デバイレ	ニカラグア	個人支配型		○	○	
1960	ラファエル・トルヒーヨ	ラムフィス・トルヒーヨ	ドミニカ共和国	個人支配型			○	
1971	フランソワ・デュバリエ	ジャン・クロード・デュバリエ	ハイチ	個人支配型				
1975	蒋介石	蒋经国	台湾	政党支配型	○	○	○	
1994	金日成	金正日	北朝鮮	政党支配型・個人	○	○	○	
2000	ハーフイズ・アル＝アサド	バシヤール・アル＝アサド	シリア	政党支配型・個人支配型・1	○		○	
2001	ローラン・カビラ	ジョセフ・カビラ	コンゴ民主共和国	個人支配型			○	
2003	ヘイダル・アリエフ	イルハム・アリエフ	アゼルバイジャン	個人支配型	○	○		○
2004	リー・クワン・ユ	リー・シェンロン	シンガポール	政党支配型	○	○	○	
2005	ニヤシンベ・エヤデマ	フォーレ・ニヤシンベ	トーゴ	個人支配型	○			○
2009	オマル・ボンゴ・オンディンバ	アリ・ボンゴ・オンディンバ	ガボン	政党支配型・個人	○		○	
2011	金正日	金正恩	北朝鮮	政党支配型・個人	○	○	○	
2021	イドリス・デビー	マフマト・デビー	チャド	軍支配型			○	

1) 政府内における役職は内閣に相当するポートフォリオを指示する(首相, 副首相, 大臣など)  
 2) 軍部における役職は国防大臣と軍高官を指示する  
 3) レンティア関連機関は経済的分配が可能になる規模の資源を管理する役職を指示する

表 3. 現代権威主義国家における最高権力の世襲事例

#### 第4節 北朝鮮における世襲

##### 1項 金日成から金正日への世襲

著名な北朝鮮研究者によって金正日への権力継承は世襲ではないとするのが定説になっている。平井(2010)の第1章はすべて金正日への権力継承について述べられている。金正日は後継者の座を父親によって与えられたものではなく、すさまじい権力闘争・後継者争いの末に自らの力で得たものであるとしている<sup>50</sup>。磯崎(2017)においても金正日への権力継承は長男だからという理由だけではなくて自らの力で実現したとしている。しかし、他国と比較したときに金日成から金正日への権力継承は「息子への世襲」よりも

<sup>49</sup> ハイチ、ドミニカ共和国、チャドの事例は理論の対象外であることを別論文で説明している。

<sup>50</sup> 平井 久志. 『なぜ北朝鮮は孤立するのか：金正日破局へ向かう「先軍体制」』. 東京：新潮社；2010.

「指名された後継者への権力継承」の要素の方が強いのであろうか。以下で、金正日が権力を継承するまでの経歴に関して述べる。

金正日は1958年に東ドイツ航空軍官学校に留学したと言われ、軍務経験はあるとされるが革命第一世代に比べると見劣りするもので権威の確立はできなかった。1964年に金日成総合大学卒業後に党中央委員会宣伝煽動部と組織指導部で活躍し、副部長になった。磯崎(2017)によると芸術の才能に溢れていたとされ、巧みな演出家として思想教育を担った。軍歴では優位に立てないことから金日成の権力強化のために思想教育の面から貢献した。1966年には党中央委員会第四期第十五次全員会議の第二次党代表者会で金日成が機会主義分子について警告した際に金正日は修正主義分子の追求として「事態の真相」を報告した。それにより、直属の上司である党秘書・宣伝煽動部長金道満は粛清された。金日成同志革命研究室を創設し、金日成主義化を推進することで個人崇拜の浸透に貢献して個人支配体制の確立に貢献した。1970年の第五回党大会において主体思想の勝利、唯一思想体系が確立すると同時に金正日への権力継承に反対する政治エリートが粛清された。1973年朝鮮労働党中央委員会総会で組織・宣伝担当書記として宣伝煽動部門を完全に掌握することに成功した。この時に掌握した組織は「朝鮮労働党の核心」<sup>51</sup>と呼ばれる要の部署であり、軍部に対する指導も行うことで党と軍に対する自身の権力を高めた<sup>52</sup>。1974年2月の朝鮮労働党中央委員会第五期第八次全員会議で政治委員会委員兼党政軍担当秘書に選ばれ、後継者として決定された。1980年朝鮮労働党第六次大会で党中央委員、政治局常務委員会委員、書記局書記、軍事委員会委員に選出され、党(すなわち国家)の中枢を占める政治局、書記局、軍事委員会の全てのポストを握ったことになる。金日成と金正日の2人で後継者として宣言したに等しかった。同時に、「党中央」という匿名から金正日という実名が公表されて初めて公式の場に登場した。そして、1982年には金日成生誕70周年記念をめぐる記念行事として主体思想塔、凱旋門、人民大学習堂、金日成競技場などを建造して国内における権威を高めた。また、国家と指導者の正統性を担保する主体思想に関するイデオロギー解釈権を継承した。残されたのは国家、軍での地位の確保だけになった<sup>53</sup>。ルーマニア革命と天安門事件を契機として軍を軸とする権力継承の用意が突然、始まった<sup>54</sup>。1991年に軍最高司令官に就任、1992年には共和国元帥、1993年には国防委員長、1994年に金日成が死去したことで国家の最高権力を継承した。1997年に党総書記を新設して就任し、1998年に国防委員長を国家における最も高位の役職にすることで盤石な権力基盤を確保した。自身の権威・権力を向上

<sup>51</sup> 平岩 俊司. 『北朝鮮：変貌を続ける独裁国家』. 東京：中央公論新社；2013.

<sup>52</sup> 鐸木 昌之. 『北朝鮮首領制の形成と変容：金日成、金正日から金正恩へ』. 東京：明石書店；2014.

<sup>53</sup> 平岩 俊司. 『北朝鮮：変貌を続ける独裁国家』. 東京：中央公論新社；2013.

<sup>54</sup> 同上

させるために、政治エリートの入れ替えを常に行っていた。1966年に党秘書・宣伝煽動部長金道満は肅清され、1973年から74年にかけて金永南、延享黙、崔載羽など革命第二世代（金日成出身のパルチザン派に属するエリートの息子）を積極的に登用して以後、金正日とともに昇格することになる<sup>55</sup>。1974年から78年にかけては国家副主席金東奎、秘書金仲麟、朝鮮人民軍総政治局長李用茂、党組織部長朴寿東ら指導者が失脚した。代わりに1992年に最高指導者層を形成することになる人物が昇格を果たしている。1983年には情報機関である国家保衛部部長金炳河が失脚して、海軍司令官金成国、人民武力部部長張正桓なども同様に表舞台から姿を消した。パルチザン派や金日成の親戚も含まれていた。以上のように、金正日は父親の権威も利用しながら政治エリートを入れ替え続けて政敵を排除し、世襲する権力基盤を確保した。以下では、他の共和制国家における世襲と金正日の権力継承を比較する。

台湾の蒋介石から蔣経国への世襲は1975年に完了した。蔣経国も金正日と同様に、国共内戦を戦ってきた第一世代に比べて軍歴がないために権威が見劣りしていた。蒋介石の権力基盤であった黄埔系の軍高官が死去したり、最上位の軍高官たちを大使として国外に派遣することで自身の基盤を確立した。胡陸軍一級上將は駐南ベトナム大使として、黎玉璽海軍一級上將は駐トルコ大使として派遣されて陳誠副總統（一級上將）は死去した。人事権を掌握していた蔣経国は古参エリートを国外に出すことで反対勢力を削いだ。金正日のような激しい権力闘争はなかったが、国家機関を上手に活用することで世襲の用意をしていた。蔣経国が政治家としてのキャリアをスタートさせた特務組織の政治行動委員会を總統の主宰する国防會議（のちに蔣経国が実権を握り続けて国家安全會議）へ、總統府機要室資料組を国家安全局に格上げすることでイメージの改善も図って自身の権力拡大を達成<sup>56</sup>した。この特務組織は非公式に近い存在であり、当初はイメージが悪い窓際部署のようなものであった。しかし、捺印1つであらゆる命令を党と行政に下すことができる立場であり、事実上の長官を務めていた蔣経国は影の権力者として政治エリートを掌握していた。蔣経国は特務組織のメンバーとしてキャリアをスタートさせ、最終的には実力者となってから政治の表舞台に出るために組織の地位の向上を果たした。また、国家安全會議で現実路線である「政治的な反攻」<sup>57</sup>を徐々に訴えることで「大陸反攻」の方針を包摂した「攻守一体戦略」を唱えた。地道に新たな路線を示すことで父親と同様に軍高官から忠誠を買って国軍を支配下に置いた。激しい肅清はなかったが、蔣経国は権力基盤を拡大するためにリスクをとりながら特務組織の地位向上とそれに伴う権力向上を達成した。台湾という国

<sup>55</sup> 鐸木 昌之. 『北朝鮮首領制の形成と変容：金日成、金正日から金正恩へ』. 東京：明石書店；2014.

<sup>56</sup> 松田 康博. 「蔣経国による特務組織の再編—特務工作統括機構の役割を中心に」. 『日本台湾学会報』. 2000(2):114-129.

<sup>57</sup> 同上

家の存続のためにタカ派で古参の軍高官と異なる方向性を示しながらもバランスを保って自身の主張が正しいことを証明した。蒋経国への権力継承準備機関は20年近くあり、徐々に自身の地位を高めて第一世代を超えた権力を獲得したという点で金正日へのそれに類似する。

シリアのバッシヤール・アル＝アサドは2000年にハーフィズ・アル＝アサドから国家元首の座を世襲した。バッシヤールはロンドンの眼科医であったが、本来の後継者バジルが交通事故で死亡後に父親ハーフィズ・アル＝アサドに呼び戻されて世襲の準備が始まった。ダマスカス高等軍事アカデミーで学び、最強の情報機関である共和国防衛隊の司令官に任命され、汚職撲滅キャンペーンを主導することで潜在的な敵である政治エリートを検挙した。レバノン内戦の担当を副大統領アブドゥラ・ハリム・ハダムから乗っ取る形で引き継いだ。1994年にアリー・ハイダル特殊部隊司令官を逮捕、1998年にヒクマト・アル＝シハービー参謀総長、叔父のリファアト・アル＝アサド民族治安担当副大統領、1999年にムハンマド・ナシフ総合情報部次長兼内務課長、ムハンマド・アル＝フーリー空軍司令官、アリー・ドゥーバー軍事情報局長を追放・排除するなど政治エリートの入れ替えを主導<sup>58</sup>した。1994年から徐々に始まった古参幹部・守旧派官僚の排除や兄バジルに近い政治エリートの追放は、バッシヤール・アル＝アサドに近い人物の登用を可能にした。世襲の直前である2000年にはズワビー首相を拳銃自殺に追い込むなど父親に次ぐ権力者の地位を確立した。自らが主導する汚職撲滅キャンペーンを通して、激しい権力闘争を自らの力で勝ち抜いたのだ。世襲に向けての権力基盤の強化を父親の権力に依存するのではなく、自らが能動的に行動した点において金正日のそれと同様である。

2004年に世襲したリー・シェンロンは1971年に軍のキャリアを開始し、ケンブリッジ大学トリニティカレッジで学士号し、アメリカ陸軍指揮幕僚大学を卒業してハーバード大学ケネディスクールで公共政策学の修士号を取得した。統合幕僚長の地位を経たのちに31歳で史上最年少の准将になり、1984年に退役した。そして政治家としてのキャリアを歩み始め、国会議員に選出され、貿易・工業副大臣と国防副大臣に任命された。1987年には貿易・工業大臣と国防大臣を兼務、1990年から2004年まで副首相、2001年から2007年まで財務大臣を務めるなど、政界においてはシンガポールを支える経済と軍事に関する役職を経験した。開発独裁を通じて急成長した国家の中枢に関わり、一定の評価をされている。与党人民行動党においては1986年から中央執行委員会委員、1989年には第二副幹事長、1992年には第一副幹事長を務めて党組織においても権力継承の用意がされた。そして2004年にゴー・チョク・トンから首相の座を譲り受けることで国家の最高権力を世襲した。リー・シェンロンも父親から国家元首

---

<sup>58</sup> 青山 弘之. 「“ジュムルーキーヤ”への道(1)バッシヤール・アル＝アサド政権の成立」. 『現代の中東』. 2001(31):13-37.



の座を譲り受けたのではなく、青年期からエリート教育を受けて首相にふさわしい実績を残してきた。単純なネポティズム支配ではなくて、血縁や情実といった要素を含むメリトクラシー(実力主義)に依拠する形で、最終的に彼は同期との出世争いを勝ち抜き、父親の意向ではなくて第三世代からの非公式会談で指名を受けて首相になっている<sup>59</sup>。父親からお膳立てされたものではなくて20年という長い年月をかけて実績を残すことで世襲に成功した。

13事例からアジア地域の台湾とシリア、シンガポールの3つを取り上げて参照したが、いずれの事例も後継者の努力がなければ世襲は実現できなかった。金正日が芸術という才能を生かして思想教育に貢献したように蒋経国は特務組織の格上げと「大陸反攻」の路線策定で台湾の正統性を守った。バッシヤール・アル=アサドは司令官として汚職撲滅を過激に行って政敵になりうるエリートを排除することで権力闘争を勝ち抜いた。シンガポールのリー・シェンロンも第三世代のなかでトップに上り詰めるために要職を歴任して実績を残すことで実力を他の政治エリートに認められた。金正日を含めた世襲指導者たちは少なからず父親の権威に依拠していたことは否定できないが、いずれも実績によって世襲に成功した。

「金日成から金正日への権力継承は世襲ではない」と著名な北朝鮮研究者は唱えている。確かに金正日から金正恩への権力継承に比べたら相対的にそう見えるが、他国と比較したら共和制国家における世襲としては通常のものであることがわかる。本項の結論は、金日成から金正日への権力継承は共和制国家においては通常の世界であるというものだ。

## 2項 金正日から金正恩への世襲

2011年に金正恩は「共和制国家」において初めて三世代の世襲に成功した。2008年8月に父親であり、「偉大な最高司令官」金正日が脳梗塞で倒れたことで金正恩への権力継承が準備された。2010年第三次朝鮮労働党代表者会で党中央軍事委員会の機能が復活し、軍事力の運用を決定する最高機関になったことで党が軍を指導する「先軍政治」を整備した。金正日時代は老将を名誉職として据えていた組織であったが、新たな組織の委員には金正日、金正恩、総参謀長李英鎬、人民武力部長金英春など党規約第27条を執行する能力を保持する機関の長が就任し、朝鮮労働党において軍事政策を決定する最高機関になったのだ。委員長は金正日で副委員長には金正恩が就任した。また、同じ2010年には内閣も改造されて後継体制づくりが進んだ。そして、金正恩の親衛隊にあたる護衛総局と「エリート部隊」である偵察総局も新設され、人民軍の大將に昇格した。「軍の中の軍」である護衛総局と偵察総局を作り、少ない費用で精鋭部

---

<sup>59</sup> 久末亮一、「シンガポールにおける後継首相の決定プロセスと今後の展望」、アジア経済研究所、2019(「転換期のシンガポール」調査研究報告)

隊を維持することで人民軍が離反したときに備えた。そして、党代表者会や党中央委員会全体会議、党政治局会議などの機能が復活して制度化を進める<sup>60</sup>ことで金正恩への権力継承準備が加速した。李英鎬が率いる新軍部が台頭して軍のトップや党の要職を占めたが、呉克烈が率いる旧軍部が力を失うなど政治エリートの入れ替えが激しかった<sup>61</sup>。金正日は20年以上にわたる長い時間をかけて世襲の助走期間があったが、金正恩はわずか2年しかない。これは他国と比較しても非常に短い期間である。

しかし、2年の間に行われた一連の統治機構改革や人事異動、粛清は金正恩が主導したのではない。父親である金正日が完全にアシストする形で実行された動きである。金正恩は突如として人民軍大将、党中央軍事委員会副委員長に指名されて護衛組織も設立されたことで後継者としての権力基盤を確保し始めたが、地位を手に入れた上で自ら能動的に行動することで世襲への地盤を固めていない。父親の死去が早すぎたこともあるだろうが、実績も自身の力による権力闘争の勝ち抜きも経験したことがない名ばかりの後継者であった。その点において、金正日の世襲やその他の共和制国家の世襲事例とは異なる。父親から指名をもらって権力を与えられただけで自動的に国家元首になることができたのだ。このような権力継承は共和制国家ではなく、君主制国家によく見られるものである。例えば、タイのラーマ10世（ワチラロンコーン）は1972年に王太子としての称号を父親に付与され、一時的に軍に所属したが権力闘争とは無縁に生きて2016年に即位した。ブータンのワンチュク国王はオックスフォード大学で修士号をとったのちに皇太子として象徴的な外交活動に従事していたが、実績がないまま国家元首になった。ヨルダンのアブドゥラ2世はイギリス王立の士官学校を卒業したのちに特殊部隊の副司令官になったのちに国王に就任した。いずれの事例も皇太子時代に激しい権力闘争を経験していない。出自によって祖先から地位を与えられ、政治エリートも実績のない若者の地位を追認することが君主制国家では常識になっている。ただし、サウジアラビアは王族が数千名に及ぶ大所帯であり、数十にも及ぶ部族から構成されることから一枚岩的ではないため、権力闘争を勝ち抜かなければならない例外事例になる。しかし、大半の君主制国家における事例を踏まえると、金正恩への権力継承は血統のみに正統性を依拠する君主制に近い世襲であると言える。2年という世襲の準備期間も確かに影響しているように思われるが、ブルネイ国王ハサナル・ボルキアは15歳の時に王太子になって21歳の時に即位している。そのため、金正恩の君主制的な世襲における準備期間や即位年齢は異常なものではない。北朝鮮における権力継承について総括すると以下の通りになる。

1. 金日成から金正日への権力継承は共和制国家における世襲の要素が強い

---

<sup>60</sup> 鐸木 昌之. 『北朝鮮首領制の形成と変容：金日成、金正日から金正恩へ』. 東京：明石書店；2014.

<sup>61</sup> 和田春樹著. 『北朝鮮現代史』. 岩波書店；2019.

## 2. 金正日から金正恩への権力継承は君主制国家における世襲の要素が強い

### 第5節 終論

本稿は北朝鮮の政治体制と権力継承に関する議論を他国と比較する形で説明した。政治体制を分類するにあたって、多元主義・イデオロギー・動員・リーダーシップの4つの項目で検討した結果として全体主義的な要素とスルタン主義的な要素が混在していることが分かった。加えて、2013年の「党の唯一的領導体系確立の十大原則」の改定によって世襲が明文化されたことから君主制への分類が妥当性を帯びた。先行研究を踏まえて、より詳細に分析すると支配君主制に分類することができる。北朝鮮は人民民主主義を謳って共和制国家であることを標榜しているが、他国と比較した上で相対的に位置付けると実態は「全体主義／スルタン主義的 支配君主制」が最も適切である。1900年代後半には消滅したと思われる全体主義体制とスルタン主義体制の要素が残りながらも、2013年に新たに世襲が明文化されたことで君主制的側面も加わった国家だ。

そして後半部では三世代にわたる権力継承がどのようなものであるのかについて議論した。地域研究者の間では金正日への権力継承は世襲ではないといったものが通説となっているが、他の共和制国家における権力継承と比較すると通常の世界であることが判明した。共和制国家における世襲指導者は自らが主体的に権力闘争を勝ち抜いて実績を残すことを通して、父親から支配者の地位を引き継ぐ傾向にあることから金正日も同様に世襲したと言える。一方で、金正日から金正恩への権力継承は2年という僅かな期間で達成されており、それも正日に御膳立てされた形式だ。正恩が自ら権力闘争を主導したのは権力継承以後であり、目立った実績も残していなかったのに政治エリートに追認された事実から君主制国家における世襲に近いものであると言える。

日本における北朝鮮研究は地域研究的な側面が濃いですが、新たに比較政治学的な側面を入れることで北朝鮮という特異な国家を相対的に分析・説明することを試みた。権力継承の厳密な分析に関しては情報不足な点もあって課題が山積しているが、今後の北朝鮮研究に貢献することができれば幸いである。

#### 【参考文献】

1. Arendt H, 大久保 和郎. *全体主義の起原*. 東京: みすず書房; 1981.
2. Bon SK. Unique or common? the kim jong un regime and modern authoritarianism. *North Korean review*. 2017;13(2):5-23.
3. Chehabi HE, Linz, Juan J. (Juan José). *Sultanistic regimes*. Baltimore: Johns Hopkins University Press; 1998.
4. Geddes B, Wright J, Frantz E. Autocratic breakdown and regime transitions: A new data set. *Perspectives on politics; Persp on Pol*. 2014;12(2):313-331. doi: 10.1017/S1537592714000851.

5. Geddes B, Wright J, Frantz E. *How dictatorships work: Power, personalization, and collapse*. New York, NY: Cambridge University Press; 2018. 10.1017/9781316336182.
6. Geddes B. *Paradigms and sand castles: Theory building and research design in comparative politics*. Ann Arbor: University of Michigan Press; 2010. 10.3998/mpub.11910.
7. Herz JH. The problem of successorship in dictatorial régimes; A study in comparative law and institutions. *The Journal of politics; J of Pol*. 1952;14(1):19-40. doi: 10.2307/2126387.
8. John Kifner. Syrian vote to confirm assad's son as president  
. *New York Times*. "Jul 11, " 2000.
9. Lan'kov, A. N. (Andrei Nikolaevich), 山岡 由美訳. 『北朝鮮の核心 : そのロジックと国際社会の課題』. 東京: みすず書房; 2015.
10. Levitsky S, Way LA. *Competitive authoritarianism: Hybrid regimes after the cold war*. New York: Cambridge University Press; 2010. 10.1017/CBO9780511781353.
11. Linz JJ, Stepan A. *Problems of democratic transition and consolidation: Southern europe, south america, and post-communist europe*. Baltimore: Johns Hopkins University Press; 1996.
12. Linz JJ. *Totalitarian and authoritarian regimes*. Boulder, CO: Lynne Rienner Publishers; 2000.
13. Mauzy DK. Leadership succession in singapore: The best laid plans. *Asian survey*. 1993;33(12):1163-1174. doi: 10.1525/as.1993.33.12.00p0339z.
14. McCormack G, 吉永 ふさ子 訳. 「北朝鮮という国家をどのように解するか--5つの仮説を中心に」. 『世界』. 1993(587):278.
15. Stacher J. Reinterpreting authoritarian power: Syria's hereditary succession. *The Middle East journal*. 2011;65(2):197-212. doi: 10.3751/65.2.11.
16. Stepan AC, Linz, Juan J. -- (Juan José), Minoves JF. Democratic parliamentary monarchies. *Journal of democracy*. 2014;25(2):35-51. doi: 10.1353/jod.2014.0032.
17. Van den Bosch J. Personalism: A type or characteristic of authoritarian regimes? *Politologická revue; Czech Political Science Review*. 2015;21(1):11-30.
18. Zisser E, Asad Ba. Will bashshar al-asad last? *Middle East quarterly*. 2000;II(3):3-12.
19. 青山 弘之. 「"ジュムルーキーヤ"への道(1)バッシヤール・アル=アサド政権の成立」. 『現代の中東』. 2001(31):13-37.
20. 五十嵐 隆幸. 「蒋介石から蔣経国への権力継承 : 軍事戦略の転換期における「統帥権」の所在に着目して」. 『日本台湾学会報』. 2019(21):130-148.
21. 石丸次郎. 第 210 回産業セミナー 「揺れる金正恩唯一独裁体制 : 孤立と粛清の四年を振り返る」. 『セミナー年報』. 2015:27-42.
22. 磯崎 敦仁. 「北朝鮮政治体制論の研究動向と「スルタン主義」」. 『国際情勢』 : 紀要. 2006(76):107-119.
23. 磯崎 敦仁, 澤田 克己. 『北朝鮮入門 : 金正恩体制の政治・経済・社会・国際関

- 係』. 東京: 東洋経済新報社; 2017.
24. 上谷 直克. 「国家コーポラティズム(論)の呪縛?-- 「民主化」以後のラテンアメリカにおける政・労・使関係の軌跡」. 『大原社会問題研究所雑誌』 = *The journal of Ohara Institute for Social Research*. 2008(595):31-47.
24. 鐸木 昌之. 『北朝鮮首領制の形成と変容: 金日成、金正日から金正恩へ』. 東京: 明石書店; 2014.
25. 立花 優. 「ポストソ連期アゼルバイジャンの政治変容: 旧ソ連地域における政治体制の事例研究」.; 2013.
26. 立花 優. 論文 「新アゼルバイジャン党と政治体制」. 『*Ajia keizai*』 . 2008;49(7):2-
27. 久末 亮一. 「シンガポールにおける後継首相の決定プロセスと今後の展望」. アジア経済研究所. 2019(「転換期のシンガポール」 調査研究報告書). [https://www.ide.go.jp/library/Japanese/Publish/Reports/InterimReport/2018/pdf/2018\\_2\\_40\\_021\\_all.pdf](https://www.ide.go.jp/library/Japanese/Publish/Reports/InterimReport/2018/pdf/2018_2_40_021_all.pdf).
28. 平岩 俊司. 『北朝鮮: 変貌を続ける独裁国家』. 東京: 中央公論新社; 2013.
29. 平井 久志. 『なぜ北朝鮮は孤立するのか: 金正日破局へ向かう「先軍体制」』. 東京: 新潮社; 2010.
30. 松田 康博. 「蔣経国による特務組織の再編--特務工作統括機構の役割を中心に」. 『日本台湾学会報』 . 2000(2):114-129.
31. 宮本 悟. 『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか?: 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』. 東京: 潮書房光人社; 2013.
32. 和田 春樹著. 『北朝鮮現代史』. 岩波書店; 2019.
33. 和田 春樹著. 『北朝鮮: 遊撃隊国家の現在』. 東京: 岩波書店; 1998.
34. 山田 邦夫. 「諸外国の王位継承制度--各国の憲法規定を中心に」. *レファレンス = The reference*. 2005;55(9):82-100.